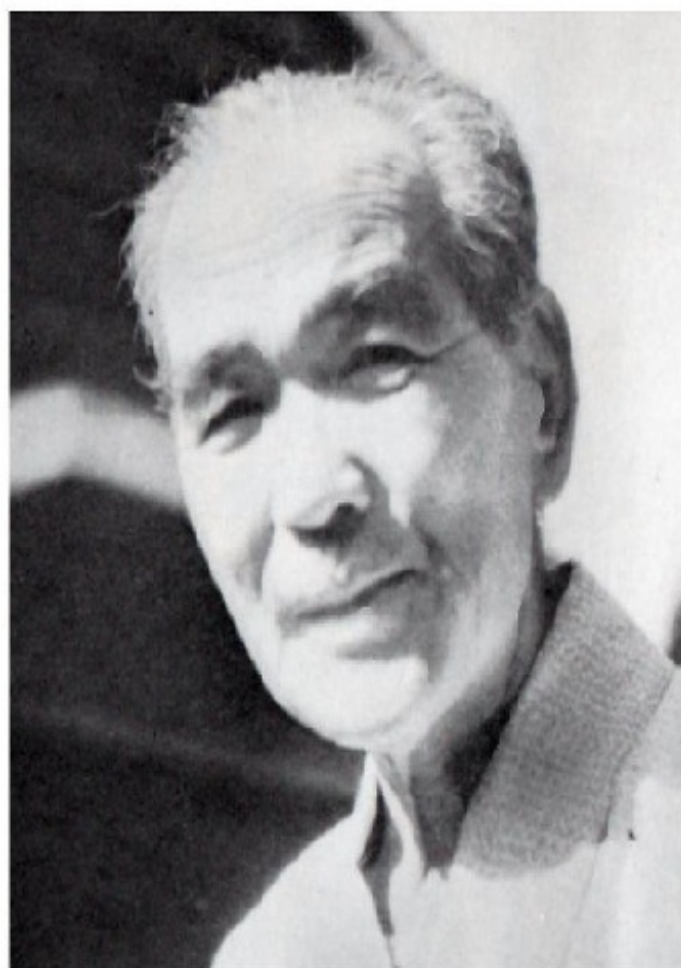




前田河廣一郎年表

一八八八（明治二一）年

十一月一日仙台市に生まれる。祖母前田河とらに育てられる。

一八九一（明治二四）年 三歳

この頃一時里子に出されるが、間もなく祖母、伯父前田河要之助と東京赤坂でくらす。

一八九三（明治二六）年 五歳

この頃伯父が宮城県若柳で医院開業、一家は若柳でくらす。

一八九五（明治二八）年 七歳

若柳小学校入学。

一九〇〇（明治三三）年 一二歳

宮城県立第一中学校入学。中学時代は学業拔群、とくに英語にすぐれ、また、『不如帰』をはじめ文学書乱読。

一九〇五（明治三八）年 一七歳

落第した五年で退学、無断で上京して徳富蘆花を訪れる。処女論文「マキシム・ゴルキーを論ず」を書き、蘆花の紹介で石川三四郎の『新紀元』編集に従事。

一九〇六（明治三九）年 一八歳

板倉中弁護士、中川愛氷の書生に。高橋民友社、井上耕牧園で働く。

一九〇七（明治四〇）年 一九歳

「馬」『世界婦人』創刊号に掲載。五月渡米、シカゴに落ち着く。仕事はハウスワーク、茶・コーヒーの外交販売など。

一九〇八（明治四一）年 二〇歳

九月、蘆花へ第一信。

一九一〇（明治四三）年 二二歳

肖像画の仕事始める。

一九一一（明治四四）年 二三歳

幸徳秋水ら処刑の事件を聞き、「ザ・ハングマン」を英文で創作し『ザ・カミング・ネーション』を発表。これをきっかけに社会主義者金子喜一を知る。創作を生涯の仕事にする決意を蘆花に書く。F・デルと知り合う。

一九一二（大正一）年 二四歳

「アジア連合」「ミカドの鶴の間」を『プログレッシブ・ウーマン』に掲載。

一九一三（大正二）年 二五歳

「モニュメント」『カミング・ネーション』掲載。「二十世紀」『インターナショナル』に。

一九一五（大正四）年 二七歳

年末にニューヨークへ移住。十一月の蘆花あて書簡でデルとの合作「桜のはな」について述べる。

一九一六（大正五）年 二八歳

デルの紹介でドライサー、メンケンらと援触。英文の創作をやめる。

一九一七（大正六）年 二九歳

カナダ義勇軍に応募するが耳疾で不採用。日本人会勤務（三～十一月）。雑誌『共存』に「墓の皮」を発表。シップ・チャンドラー、筆耕、チョコレート会社などで働く。

一九一八（大正七）年 三〇歳

油槽船ドンネリ号でメキシコへ三航海。年末から『日米週報』勤務、これに「澤の談」発表。この『日米週報』の短歌欄の投稿者に石井咲子があり、恋愛。

一九一九（大正八）年 三一歳

同紙に連載小説「指輪の為に」。

一九二〇（大正九）年 三二歳

二月帰国。五月に石井咲子と結婚。総合雑誌『中外』の社長内藤民治を知り、編集陣に加わり、また、『読売新聞』その他に評論を発表しはじめた。ラッセル『ボリシェビークの理論と実際』を翻訳。耳疾で兵役免除。

一九二一（大正一〇）年 三三歳

初期プロレタリア文学の代表作、「三等客船」発表。社会主義同盟に参加。「文学の劫久性と現実——武者小路実篤氏を駁す」、『読売新聞』、五月二四～二五日。「海の誘惑——大西洋の印象」（1～4）、『読売新聞』、七月一一～一四日。創作「三等客船」、『中外』、八月号、（<http://www.japanpen.or.jp/e-bungeikan/novel/maedakoukoichiro.html>）。

「普通席から見た文壇」（1～6）、『読売新聞』、一二月一二～二二日。

「三人の未完長編」（上中下）、『読売新聞』、一二月二三～二六日。

創作「熊さんの死」、『国本』、一二月号。

一九二二（大正一一）年 三四歳

『種蒔く人』同人になる。雑司ヶ谷にすむ。長男力誕生。菊池寛との文学論争始まる。

創作「へんな客人」、『種蒔く人』、二月号。

「真剣化すべきペンの闘争性」（1～4）、『読売新聞』二月一～七日。

「血に染む夕陽 評」（1～3）、『読売新聞』四月一四～一六日。

「提灯を持たざる弁——人気作家菊池・芥川・里見諸氏に就て——」、『解放』、五月号。

「対露非干渉と飢饉」、『読売新聞』六月二四日。

「本年文壇前半期の階級闘争批判」（1～2）、『読売新聞』七月一～二日。

「熱沙に書ける」（1～3）、『読売新聞』八月二〇～二三日。

創作「路傍の人々」、『表現』、八月号。

創作「裏切る」、『早稲田文学』、九月号。

「現代の閨秀作家達」、『女性日本人』、九月号。

「ジャック・ロンドンと私」、『新潮』、九月号。

単行本『三等客船』（ほかに、路傍の人々、熊さんの死、地獄、マドロスの群）、自然社、一〇月。

「土を捲いて語る」、『読売新聞』一〇月二日。

「クオ・ワヂス」（1～5）、『読売新聞』一〇月二八～十一月八日。

「紙都の破壊——ある過渡期の想望」（上下）、『読売新聞』一二月一六～一七日。

「もう四・五年の苦闘」、『新興文学』、一二月号。

「裏切る」に就て、『新潮』、一二月号。

一九二三（大正一二）年 三五歳

「脱船以後」に始まり「アメリカ文壇の一瞥」など創作・評論多数発表。プロレタリア作家として人気が高まる。「三人の会」の司会をする。

創作「脱線以後」、『新興文学』、一月号。

創作「鼠」、『種蒔く人』、一月号。

「新進作家論——結論のない評論——」、『早稲田文学』、一月号。

「紐青と五仙白銅」、『表現』、一月号。

「予想・抱負・計画・批判 バベルの対話」、『新潮』、一月号。

創作「去勢」、『サンデー毎日』、一月号。

「アメリカ女の研究」、『解放』、一月号。

「苦がい墨汁」（上下）、『読売新聞』、一月一〇～一一日。

創作「騒音地獄」、『文学世界』、二月号。

「俺の三十六年」、『文章倶楽部』、二月号。

創作「皮」、『雄弁』、二月号。

創作「赤い馬車」、「『華族の邸宅地解放』に対する批判」、『解放』、二月号。

「歪んだ戦闘線」（上中下）、『読売新聞』二月二四～二八日。

創作「拳銃を買った男」、『サンデー毎日』、三月二〇日。

単行本『赤い馬車』（ほかに、脱船以後、牛さんの職業、鼠、騒音地獄、去勢、へんな客人、裏切る、ロシアナ夫人の舞踏、拳銃を買った男、灰色、皮）、自然社、四月。

「小川未明論ーペンの重さー」、『早稲田文学』、四月号。

「全無産者諸君に!」、『解放』、四月号。

「武装した長編二つ」（1～3）、『読売新聞』、四月一一～一五日。

創作「悪戯」、「社会的正義の先駆者」、『解放』、五月号。

「アメリカ文壇の一瞥 ビョルンゾンの甥」、『新潮』、五月号。

「第二の菊池寛無用論」、『新興文学』、五月号。

創作「暴力」、『種蒔く人』、六月号。

「菊池寛に与へて」（上中下）、『読売新聞』六月二～五日。

創作「破壊の前後」、「階級文壇白熱考」、『新興文学』、六月号。

創作「麵麴」（1～30）、『東京日々新聞』『大阪毎日新聞』、七月三～八月一三日。

創作「罰金」、『文学世界』、七月号。

創作「伯父」、『早稲田文学』、七月号。

「メーデー印象記」、『種蒔く人』、七月号。

「嘘が生む社会悲劇 アントニーの虚偽」、『女性』、七月号。

創作「南京虫」、『週刊朝日』、七月五日。

「背水の弁」（1～4）、『読売新聞』、七月二八～八月三日。

「研究の宣伝」、『解放』、七月号。

「『三人の会』の報告」、『種蒔く人』、八月号。

創作「博徒」、『サンデー毎日』、八月。

「帽子を廻はした話」、『解放』、八月号。

創作「最後の変装」、『改造』、九月号。

創作「六助の話」（＝最後に笑ふ者、前半）、『大阪毎日新聞』、一一月一三～一二月五日。

「文壇左側通行」（三回もの）、『サンデー毎日』、一二月九～二月二四日。

単行本『麵麴』（ほかに、最後の変装、伯父、破壊の前夜、悪戯、罰金、博徒、南京虫）、大阪毎日新聞社、一二月。

一九二四（大正一三）年 三六歳

「目撃者」「犬」などアメリカの排日感情を扱う作品を次々に発表。長女一枝誕生。

創作「コルセット」、『福岡日々新聞』、一月一日。

創作「目撃者」（1～2）、『サンデー毎日』、一月一三～二〇日。

創作「犬」、『新潮』、二月号。

「一月の小説について」、『早稲田文学』、二月号。

「馬鹿漫筆」（上下）、『読売新聞』、二月一六～一七日。

創作「脅威」（1～8）、『週刊朝日』、三月三〇～五月一八日。

単行本『最後に笑ふ者』（ほかに、目撃者）、越山堂、三月。

「人類の母胎であり主動者である群集」、『雄弁』、四月号。

「正宗白鳥論」、『早稲田文学』、四月号。

創作「佐吉の父親」、『サンデー毎日』、四月一日。

「現実を直視すべし」、『週刊朝日』、四月五日。

「「三等船客」の素性・骨柄」、『文章倶楽部』、四月号。

「危険なる夢想主義者一武者小路実篤君に答ふ」、『読売新聞』、四月二四～二九日。

単行本『快樂師の群』、聚芳閣、五月。

「国際主義から一步踏み出て」、『新人』、六月号。

創作「奈落」（＝ダンブロ）、『文芸戦線』、六月。

「予が囑望せる新作家及び注目した作品」、『新潮』、六月号。

創作「スキヤツプ」、『サンデー毎日』、七月一日。

「米国文学の取教心『日本人』」、『読売新聞』、七月一八～二〇日。

創作「寒河江商会」、『文壇』、七月号。

「文字で描いた漫画」、『文芸戦線』、八月号。

創作「上陸禁止」、『新潮』、九月号。

創作「一寸法師」、『サンデー毎日』、一〇月一日。

単行本『大暴風雨時代』、新詩壇社、一〇月。

創作「頭髮Burlesque」、『文芸戦線』、一一月号。

「プロレタリア文学の弁護論——芥川龍之介君を駁す——」、『早稲田文学新聞』、一二月三日。

「文壇蟻地獄」、『新潮』、一二月号。

「行動への思想」、『文芸戦線』、一二月号。

「むらな一ヶ年の仕事」、『新潮』、一二月号。

単行本『脅威』（ほかに、佐吉の父親、コルセツト）、新潮社、一二月。

一九二五（大正一四）年 三七歳

創作「餓鬼」、『福岡日々新聞』、一月三日。

「プロレタリア読み物 スパイ考——アゼフの事など——」、『文芸戦線』、一月号。

「同志の影」、『社会主義研究』、一月号。

「ダニエル・デ・レオンの演説」、『新人』、一月号。

「通俗小説への向上」、『読売新聞』、一月三一～二月一日。

「新年文壇の印象片々」、『早稲田文学』、二月号。

創作「鸚鵡」、『婦人と労働』、三月号。

「白眼録」、『新潮』、三月号。

「腹いやせ、豆つぶて」、『改造』、三月号。

「紐育をかぐ記」、『新人』、三月号。

「推服すべき短編作家並に作品」、『文芸の先駆』、四月号。

創作「晋吉は醒めた」（1～2）（＝十三の階段）、『サンデー毎日』、五月一〇～一七日。

「四月の創作で面白かつた物」、『新潮』、五月号。

創作「汽船」、「私語」、『文芸戦線』、六月号。

「米国に何を学ぶべき乎」（『我等世界に何を学ぶ可き乎』上巻）、越山堂、六月。

「己を語る」（上下）、『読売新聞』、七月一～二日。

「ポール・モーランは滑稽漫画なり」、『文芸戦線』、七月号。

「大原雑信」、『文芸戦線』、八月号。

創作「手」、『改造』、八月号。

「牛鍋と散歩」（一）、『文芸戦線』、九月号。

「恋愛とは、結婚とは?」、『女性』、九月号。

創作「母 スケッチ」、「細井和喜蔵は生きてる」、『文芸戦線』、一〇月号。

「徳富先生の事など――私の青年時代――」、『文章倶楽部』、一〇月号。

「シンクレアの『ジャングル』」、『文芸戦線』、一一月号。

「大原雑信」、『文芸市場』、一一月号。

「大原雑信」（二）、『文芸市場』、一二月号。

創作「栈橋3番」、「本年度の推奨すべき小説、戯曲及映画」、『女性』、一二月号。

翻訳『ジャングル』（シンクレア）、叢文閣、一二月。

「後藤新平が「進め」へ書く場合」、『解放』、一二月号。

「十把一束に」、『新潮』、一二月号。

「歳末断想」（上下）、『読売新聞』、一二月二六～二七日。

一九二六（昭和一）年 三八歳

この年、『文芸戦線』内部に福本イズムによる分裂発生、反福本イズムの立場をとる。中野西町に住む。次女友枝誕生。

創作「海の軽業」、『文芸戦線』、一月号。

創作「馬の葬式」、『文芸道』、一月号。

「我々の争議」、『文芸市場』、一月号。

「大正十五年の文壇及び劇場に就て語る」、『新潮』、一月号。

「晴雨計」、『読売新聞』、一月一〇日。

「オートバイ競技場、外」、『文芸戦線』、二月号。

「大原雑信」（三）、『文芸市場』、二月号。

創作「キヤラメル」、『太陽』、三月号。

「前田河廣一郎」（1～18）、『文芸戦線』、三月号～昭和二年八月号。

創作「慈善」、『女性』、三月号。

「主張と抗弁」、『読売新聞』、三月二四日。

「スパイと探偵小説」、『探偵趣味』、四月号。

創作「危険な拾得物」、『文芸市場』、四月号。

「州知事にならうとするアプトン・シンクレエア」、『読売新聞』、四月一二日。

「プロレタリア文学運動を認めよ」、『大衆』、六月号。

創作「海の女」、『女性』、七月号。

創作「ストライキ中――A Farce」、『文芸市場』、七月号。

「唯物史観的文芸論 シンクレエアー」、『文芸戦線』、七月号。

「無産階級の文学の認定」、『解放』、七月号。

創作「黒い海」、『週刊朝日』、七月二五日。

創作「こわれた兵隊さん 少年少女の読みもの」、『週刊朝日』、九月一二日。

創作「盗人」、『女性』、九月号。

「近事感想 贅肉一擲」、『文芸戦線』、一〇月号。

翻訳『義人ジミー』（シンクレア）、改造社、十一月。

「鉄の使ひ分け」、『文芸市場』、十一月号。

「無題二則」、『新潮』、十一月号。

「演劇雑感」、『読売新聞』、十一月二六日。

「女は強い」（『続一日一文』）、大阪朝日新聞社、十一月。

創作「群集」、『改造』、一二月号。

「主として劇作に」、『新潮』、一二月号。

創作「登場人物」、『週刊朝日』、一二月一二日。

「わが腕、ひとの腕」、『女性』、一二月号。

一九二七（昭和二）年 三九歳

腎臓病で半年ほど信州の温泉に。「寡作な年」という。

翻訳「メキシコ人」（ロンドン）、『文芸戦線』、一月号。

「ジャン・ヴァルジアンに扮するの記」、『解放』、一月号。

「大正十六年における抱負、嘱望すべき新人、注文意見等」、『文芸公論』、一月号。

「ハメット王と小説」、「ブック・レビュー「シャルル・ブランシヤル」」、『文芸戦線』、二月号。

「菊池寛論――其他反駁四則――」、『文芸市場』、二月号。

「日本と支那」、『雄弁』、三月号。

「ブック・レビュー『暁』の第三部」、『文芸戦線』、三月号。

「新潮合評会」、『新潮』、三月号。

創作「顔」、『東京朝日新聞』、三月一日。

創作「朝と夜」、『週刊朝日』、三月一三日。

「滅び行く旧劇」、『週刊朝日』、三月二七日。

「福本イズムその他」（＝福本イズムと疥癬）、『読売新聞』、四月一〇日。

「メーデー」、『文芸戦線』、五月号。

創作「太陽の黒点」、『改造』、六月号。

「旅と云つても」、『文芸公論』、七月号。

「自らを聴いたならば」、『雄弁』、八月号。

創作「死を啖ふ群」、『週刊朝日』、八月号。

創作「傍観者」、『文芸戦線』、八月号。

「自他、或は一般」、『文芸戦線』、九月号。

「生活に於ける雑感」、『週刊朝日』、九月一日。

「健次郎先生と私」、『週刊朝日』、一〇月二日。

翻訳「脱獄囚の研究」（ジョセフ・フィッシュマン）、『文芸戦線』、一〇月号。

「追憶記 ひとり徳富健次郎先生を山上に葬る」、『改造』、一一月号。

「前衛芸術家同盟の欺瞞」（上中下）、『読売新聞』、一一月二五～二七日。

「寡作な年」、『新潮』、一二月号。

「検閲制度に反抗したシンクレアの「石油！」発売禁止反対事件」、「ブック・レビュー『豚群』を評す」、『文芸戦線』、一二月号。

一九二八（昭和三）年 四〇歳

一〇月から（翌年三月まで）中国へ。魯迅、郁達夫、田漢らに会う。高円寺に住む。

「アメリカ行一一自伝の一節一一」、『文芸公論』、三月号。

「近代風景」、翻訳「戦争一一海外社会文芸作品一一」（ロンドン）、『文芸戦線』一月号。

「冬を憎む」、『週刊朝日』、一月二二日。

創作「ムツソリーニ」、『改造』、一月号。

「左翼本の流行とプロレタリア文学」、『不同調』、二月号。

「シンクレアの胃腑」、『改造』、二月号。

創作「拵へられた男一一Tom Mooney事件の再録一一」、「鉄鎖」、「ファツシズム雑考」、『文芸戦線』、二月号。

単行本『新選前田河廣一郎集』、改造社、二月。

翻訳『地獄』（シンクレア）、南宋書院、二月。

翻訳「ボストン」（シンクレア）、『文芸戦線』、三月号。

創作「俺達五人」、『文章倶楽部』、三月号。

「ある日の日記(2)やや忙しい二日」、『新潮』、三月号。

「築地小劇場を見て「双恋記」と「拵へられた男」」、『文芸戦線』、三月号。

「文芸の正道とは何ぞや 過程・方向・暗示」、『読売新聞』、四月四～六日。

「論評二つ」、『文芸戦線』、四月号。

創作「黙禱」、『文芸春秋』、四月号。

「宮島資夫氏と自分」、『新潮』、五月号。

「谷崎潤一郎論」、『文芸戦線』、五月号。

「シャウトド・アンダーソン論評」、『新文化』、五月号。

「あくの強い男」、「二人の新作家」、『改造』、五月号。

「二つの抗議」、『中央公論』、五月号。

創作「闇 A Melodrama」、『女性』、五月号。

創作「犬」（『戦争に対する戦争——アンチ・ミリタリズム小説集』）、南宋書院、五月。

創作「ラスプーチンの死」、『改造』、六月号。

「低い鼻の持主」、『新潮』、六月号。

創作「ポスター」、『文芸戦線』、六月号。

「「赤い馬車」の馬」、『文章倶楽部』、六月号。

「国家の文芸家表彰に就て」、『新潮』、七月号。

創作「澤市を見た」、『週刊朝日』、七月二九日。

「不思議な殺人事件」、『文芸戦線』、七月号。

「史的人物劇に就て」、『読売新聞』、八月二一～二三日。

単行本『黙禱』（ほかに、拵へられた男、盗人、ラスプーチンの死、澤市は見た、ムツソリ一ニ）、文芸戦線出版、八月。

創作「王は笑ふ」、『改造』、九月号。

「文芸時評」、『文芸戦線』、九月号。

創作「戯曲 クレオパトラ」、『中央公論』、一〇月号。

「剥製の紐育」、『改造』、一一月号。

「ロビン・フッドの叛逆」、『中央公論』、一二月号。

「本年発表作」、『新潮』、一二月号。

単行本『新選前田河廣一郎集続篇』、改造社、一二月。

一九二九（昭和四）年 四一歳

中国関連作品の発表。

「支那は動く」（1～3）、『改造』、一月号。

「揚子江岸から——支那通信」、『文芸戦線』、一月号。

「支那の文学者」（1～3）、『読売新聞』、二月一二～一四日。

創作「馬と人との間」（1～12）（＝馬糞の街）、『読売新聞』、二月二三～三月八日。

創作「驟雨」、『文芸戦線』、三月号。

創作「長篇小説 支那」、『中央公論』、三月号。

「故山本宣治君」、『文芸戦線』、四月号。

「創造社の解散」、『文芸戦線』、四月号。

「文芸時評」、『改造』、四月号。

「サッコ・ワンゼッテ事件の裏」、『文芸戦線』、五月号。

「上海の宿」、『改造』、五月号。

創作「敗軍」、『文芸春秋』、五月号。

「その「クレオパトラ」の役」（『伊澤蘭奢』）、世界社、五月。

「盛岡行」、『文芸戦線』、六月号。

創作「蒋介石」（1～5）、『文芸戦線』、六～一十一月号。

創作「頼朝から貰った鳥」、『改造』、七月号。

単行本『悪漢と風景』（日本そこ彼処、不思議な殺人事件、脱獄囚の研究、スパイ考、剥製の紐育、ロビン・フッドの叛逆、近世大盗女盗伝、大きく動く支那）、改造社、七月。

「プロレタリア文学の内容、など」（『プロレタリア芸術教程1』）、世界社、七月。

「英雄の研究 新「英雄」製造法」、『改造』、八月号。

翻訳「釈放」（マイケル・ゴールド）、『文芸戦線』、八月号。

「プロカブルか」、『新潮』、九月号。

「文芸時評」、『文芸戦線』、九月号。

翻訳「同志ジョアニアの死」（ペトロス・ピクロス）、「歌舞伎『義民録』」、『文芸戦線』、一〇月号。

創作「母親」、『若草』、一〇月号。

創作「セムガ」、『改造』、一十一月号。

「賄賂考 その「正義的」批判」、『中央公論』、一十一月号。

翻訳『ボストン』上巻（長野兼一郎と共訳）、改造社、一十一月。

「シンクレアとの通信」、『文学時代』、一二月号。

「自己批判」、『新潮』、一二月号。

翻訳『ソヴェート・ロシア風土記』（A・R・ウィリアムズ）、中央公論社、一二月。

一九三〇（昭和五）年 四二歳

「ガストニア事件」、『文芸戦線』、一月号。

創作「長江進出軍」、『改造』、一月号。

単行本『セムガ』（ほかに、長江進出軍、太陽の黒点）、日本評論社、一月。

翻訳「ストライキの研究」（ヒラー）、『文芸戦線』、二月号。

翻訳・訳補「オイル！」（シンクレア）、『文芸戦線』、三月号。

「同志レスルッスを案内する——文芸時評的に——」、『改造』、三月号。

翻訳『資本』（シンクレア）、日本評論社、四月。

単行本『拵へられた男』（ほかに、三等船客、黙禱、陸のつきる処）、塩川書房、四月。

創作「落ちる黒ん坊」、『舞台戯曲』、五月号。

単行本『支那』（ほかに、驟雨、馬糞の街、敗軍、母親、上海の宿、頼朝から貰った島、蒋介石、セムガ、長江進出軍）、改造社、五月。

単行本『十年間』、大衆公論社、五月。

「シンクレア評伝」、『改造』、五月号。

「ガンジー及び商会——ブルジョア新聞の読み方〔に〕について——」、『文芸戦線』、五月号。

翻訳『ボストン』下巻（長野兼一郎と共訳）、改造社、六月。

創作「乞食」、「世界は失業者で動いている!」、『文芸戦線』、六月号。

「ユージン・オニール論」、『文芸戦線』、七月号。

「さまよえる猶太人」、『中央公論』、七月号。

創作「ヘンリー・フォード」、『改造』、七月号。

創作「メキシカリ行」、『中央公論』、九月号。

翻訳「子供が生れる」（チャールズ・エール・ハリソン）、『文芸戦線』、九月号。

「世界的芸術家の横顔 アプトン・シンクレアへの抗議」、『新潮』、一〇月号。

「十一月の断想」、『文芸戦線』、一十一月号。

「黒人迫害物語」、『改造』、一十一月号。

単行本『支那から手を引け』新作長編小説選集（里村欣三と合作）、日本評論社、一十一月。

「戦線回顧・1930年 歴史的な展望」、『文芸戦線』、一二月号。

「本当の仕事はこれからといふ年!」、「1930年のプロレタリア作品」、『新潮』、一二月号。

一九三一（昭和六）年 四三歳

生活が苦しくなる。

創作「ドバス」、『改造』、一月号。

「一万一千人の話」、『新潮』、一月号。

翻訳「チャプリン行進曲」（マイケル・ゴールド）、『文戦』、二月号。

「シンクレア・ルイス研究」、『文戦』、二月号。

「赤鉛筆と黒鉛筆」、『文戦』、三月号。

創作「アトランテック丸」、『新潮』、三月号。

「略答まで」、『作品』、三月号。

翻訳『本町通り』（シンクレア・ルイス）、新潮社、三月。

「犬殺し」、『文戦』、五月号。

「世界のイースト・サイドを見る 貧民窟の一角」、『新潮』、五月号。

「新マルコ・ポロ物語」、『文戦』、六月号。

「大いなる過渡期——半自伝的プロレタリア文学運動史(一)」、『改造』、六月号。

「日本の文学史を両断する」、『新潮』、七月号。

「僕の友達」、『作品』、七月号。

「貧乏小説からの転向——半自伝的プロレタリア文学運動史(二)」、『改造』、八月号。

「ここから二つに分れる——半自伝的プロレタリア文学運動史(三)」、『改造』、九月号。

「原稿『ウルトラ行進曲』」、『文戦』、九月号。

創作「朝鮮(一)」、『文戦』、九月号。

創作「朝鮮(二)」、「子供と十年」、『文戦』、一〇月号。

翻訳『将軍はベッドで死ぬ』（C・Y・ハリソン）、四六書院、一〇月。

創作「アトランテック丸」（『文戦1931年集』）、改造社、一〇月。

創作「朝鮮(三)」、『文戦』、一一～一二月合併号。

創作「旗が振られる」、『改造』、一一月号。

単行本『ソヴェートの連中と房吉』、創建社、一二月。

「支那に潜む諸問題」、『新潮』、一二月号。

創作「労働者ジョウ・オ・ブラインの死」、『新青年』、一二月号。

一九三二（昭和七）年 四四歳

創作「死よりも強し」、『近代』、一月号。

「釦を押す話——フランク・ノリスの事柄——」、『文戦』、二月号。

「文芸時評」、「ヒトラーとその運動」、『文戦』、四月号。

「着弾距離の上海」、『改造』、四月号。

創作「雨の話 或る調書の一節」、『文戦』、七月号。

創作「川」、『改造』、七月号。

翻訳『ジャングル』（前後）、春陽堂、八月。

単行本『支那』、春陽堂、八月。

一九三三（昭和八）年 四五歳

『大暴風雨時代』改造文庫に。『労農文学』を支える。

「作品朗読会以後」、『労農文学』、一月号。

「米国における非合法運動」、『世界知識』、一月号。

「ファツシヨと共産党の検討」、『近代』、一月号。

「面白い」、『労農文学』、二月号。

「壁の中の革命家」、『労農文学』、三月号。

創作「食慾」、『労農文学』、四月号。

「覚悟『レフト』同人に与へる」、『労農文学』、五月号。

「内訌への抗議」、『読売新聞』、五月二六日。

創作「ヒットラー」、『改造』、八月号。

「赤ん坊が泣く」、『労農文学』、八月号。

「貧乏の研究会」、『読売新聞』、一二月八～一〇日。

一九三四（昭和九）年 四六歳

シンクレアの知事選情報いくつか発表。『レフト』改題の『新文戦』に参加。『日本現代文章講座』に執筆。

「プロレタリア作家クラブ支持者及び愛読者に」、「同志運蔵の死」、『新文戦』、二月号。

「シンクレアの政治進出」、『読売新聞』、二月二三日。

創作「ピメントオ」、『新文戦』、三月号。

「小林多喜二の文章」（『日本現代文章講座』8鑑賞篇）、厚生閣、五月。

「プロットの選択」（『日本現代文章講座』4構成篇）、厚生閣、六月。

「主題の意義と方法」（『日本現代文章講座』2方法篇）、厚生閣、一〇月。

「加州知事候補に立つたアプトン・シンクレア」、『大阪朝日新聞』、一〇月五日。

「知事候補シンクレア」、『文芸』、一〇月号。

「シンクレア氏躍る」、『中央公論』、一〇月号。

「プロレタリア小説の構成と技術」（『日本現代文章講座』5技術篇）、厚生閣、十一月。

「転向したスミス君」、『新文戦』、一二月号。

一九三五（昭和一〇）年 四七歳

「随筆 鯊」、『改造』、一月号。

「シンクレア敗戦の真相」、『改造』、三月号。

「夏は海水浴に」、『改造』、八月号。

「新聞小説を斯うする」、『日本学芸新聞』、十一月五日。

一九三六（昭和一一）年 四八歳

『人民文庫』の座談会「日本に於ける社会主義文学の擡頭期を語る」に出席。

「漱石と蘆花——Episodical Studies——」、『日本評論』、一月号。

「座談会 日本に於ける社会主義文学の擡頭期を語る」（1～3）、『人民文庫』、八～一〇月号。

「座談会 蘆花を語る」、『日本評論』、一〇月号。

「先生と私」（『徳富蘆花 検討と追想』）、岩波書店、一〇月。

「さも・くりちか」、『人民文庫』、十一月号。

「H・G・ウェルス伝」、『改造』、十一月号。

「徳富健次郎と性愛」、『文学』、十一月号。

「宿」、『人民文庫』、一二月号。

一九三七（昭和一二）年 四九歳

「文学者として国家に何を要求するか」、『日本学芸新聞』、一月一日。

「退却」、『人民文庫』、二月号。

「蘆花記念公園 恒春園」、『東京朝日新聞』、五月一九～二〇日。

翻訳『協同組合』（シンクレア）、第一書房、六月。

単行本『サッコ・ヴァンゼッテ事件廿世紀最大不祥事』記録文学叢書、河出書房、七月。

一九三八（昭和一三）年 五〇歳

「木下尚江」、『文芸』、一月号。

『蘆花伝』、岩波書店、四月。

「伝記文学について『蘆花伝』を著して」、『文芸』、八月号。

「父子道」、『改造』、九月号。

単行本『人間』、六芸社、一〇月。

単行本『火田』（ほかに、老人、兄貴の女、女のない三人、労働者ジョウ・オ・ブラインの死、娑婆の掟、猪・鹿・蝶）、六芸社、十一月。

「文化国家に直言する!」、『日本学芸新聞』、一二月一日。

一九三九（昭和一四）年 五一歳

単行本『人間 大陸篇』、六芸社、一月。

「新しきもの古きもの」、『日本学芸新聞』、三月一日。

「蘆花の研究——『蘆花伝』由来記」、『早稲田文学』、三月号。

単行本『国境からふと』、六芸社、五月。

一九四〇（昭和一五）年 五二歳

「里村欣三の第二の人生」、『日本学芸新聞』、五月一〇日。

単行本『蒼龍』、鱒書房、五月。

翻訳『世界新秩序建設』（H・G・ウエルズ）、非凡閣、五月。

翻訳『妖聖ガントリー』（S・ルイス）、今日の問題社、六月。

翻訳『わが谿谷緑なりし』（リチャード・レウエリン）、非凡閣、一二月。

一九四一（昭和一六）年 五三歳

単行本『物語米国史』、教材社、七月。

単行本『世界偉人美談』、非凡閣、一〇月。

一九四二（昭和一七）年 五四歳

長男力、南方戦線へ。

単行本『青春限りなく』（ほかに、ロシアナ夫人の舞踏、海の女、猪・鹿・蝶、甦生＝娑婆の掟）有光社名作選集15、有光社、三月。

翻訳『印度小説 触るべからず』（ムルク・ラジ・アナンド）、六芸社、五月。

単行本『米国戦争史』、有光社、八月。

翻訳『濠州』（イリーアナ・ダーク）、有光社、十一月。

一九四三（昭和一八）年 五五歳

単行本『大維新の人々』（上下）、潮文閣、六月。

単行本『蘆花の芸術』、興風館、十一月。

一九四四（昭和一九）年 五六歳

長女一枝、氷見と結婚。前田河一家は四谷から千葉長洲町へ疎開。

一九四五（昭和二〇）年 五七歳

千葉新聞に入社。

創作「連載小説 元寇」、『千葉新報』、六月。

創作「連載小説 軍師」、『千葉新聞』、一二月。

一九四六（昭和二一）年 五八歳

力帰還、マラリアで死去、十一月妻咲子死去。新聞社退社。

一九四七（昭和二二）年 五九歳

千葉作草部で次女友枝と暮す。

単行本『トルストイ』、興風館、三月。

創作「体臭」、『新生日本文学』、五月号。

創作「無花果」、『新生日本文学』、六月号。

「アメリカ物語 自伝的に」、『明日』、八～九月号。

創作「サガレーン行」、『明日』、九月号。

一九四八（昭和二三）年 六〇歳

妻のために自伝小説「ユートピアの番地」を書く（生前未刊）。

創作「裸の村」、『明日』、五月号。

単行本『追はれる魂 復活の蘆花』、月曜書房、八月。

一九四九（昭和二四）年 六一歳

都下七生村「光稜苑」に次女と住む。

単行本『共産主義か民主主義か』、社会教育協会、六月。

「秋水と蘆花」（1～12）、『国民』、十一月～二五年一〇月号。

一九五〇（昭和二五）年 六二歳

自伝的短編「父馬鹿」で「まだ生きている始末」と語る。

創作「父馬鹿」、『東北文学』、二月号。

単行本『リンカーン』、社会教育協会、一二月。

一九五一（昭和二六）年 六三歳

三月高血圧中風発病。

「トルストイと蘆花」、『解釈と鑑賞』、三月号。

一九五二（昭和二七）年 六四歳

前年より高血圧発病、右半身不自由となる。春頃より、品川区小山台の氷見静寛家と合体。

一九五四（昭和二九）年 六五歳

「所感」、『社会主義文学』、四月号。

一九五五（昭和三〇）年 六七歳

「青春の自画像」を書き始める。

「文壇の政党化を難ず」（『日本プロレタリア文学体系 1』）、三一書房、一月。

一九五六（昭和三一）年 六八歳

青野季吉、平林たい子ら、彼のために募金。

「落穂ひろい」、『文学』、八月号。

一九五七（昭和三二）年 六九歳

「青春の自画像」完成。七月筑摩書房『現代日本文学全集77』に作品収録。12月4日心臓性喘息で逝去。享年七〇歳。千葉霊園に眠る。

一九五八（昭和三三）年

「里村欣三の笑い」、『社会主義文学』、一月号。

単行本『青春の自画像』、理想社、五月。

「田口運蔵」、『社会主義文学』、六月号。